

英訳課題

指示された部分のみ翻訳してください。

輝く木

富岡 美子

(「第10回伊豆文学賞優秀作品集 ぼくらの自由」より)

〈あらすじ〉

小学6年生のくるみは、伊豆長岡町柔道大会で同級生の大輔を破り優勝したけれど、少しも嬉しくなかった。声をかけてきた大輔に、明彦のために強くなったんだろう。と言われ、くるみは幼なじみでいこのように気にかけてきた明彦を思い出す。

明彦は春の源氏山写生大会で、白い絵具だけを使って画用紙いっぱい白い木を描きクラスの仲間に笑われるが、おれの木は紙の中に入らないと言った。

大輔たちの悪戯から、戸沢川に落ちた子猫を助けようとした明彦は風邪をこじらせ、やがて亡くなってしまう。明彦の描いた絵を見たおばさん(明彦の母)の、こらえていた深い悲しみに触れたくるみは、柔道で大輔を絶対負かしてやると一年前自分に誓ったのだった。

冬の朝、校庭の桜が白く氷に覆われた。くるみは、それを見て明彦が夢を叶えたと思った。その日、東京へ発つ大輔を無理やりハイヤーから降ろし、二人は白い木の前に立った。

* 翻訳する部分は、柔道で大輔を絶対負かしてやると誓うくるみと師範の会話である。

翻訳はここから

柔道は、三つ上の兄ちゃんに付いて小さいときから始めた。今までは遊び半分で、強くなりたいと考えたことがなかった。

だけど、昨年の大会で一回戦負けした後、真剣な顔をして師範をたずねた。

「どうしたんだな、急に強くなりたいとは？」

「男に負けたくない。強くなって……」

少し気負って答えた。

「ほー。男に、負かしたい相手でもいるのかな？」

黙って唇をかんだ。これ以上話したら、涙が出そうでこらえると首を振った。

「男と女は、同じではないのは分かるな。だが、柔道はまず己に勝つことが肝心だ。女の自分に勝つことだ」

言われた言葉の意味が分からなかったけれど、目の前に立っている父ちゃんより小柄な師範が、内浦湾うちうらわんに浮かぶ淡島あわしまの後ろから見える富士山のように、目をこらして見つめた。

「数ある試合で忘れられないのは、わしが負けた試合なんだが、相手はみんな優しいんだな。くるみ、本当に強いということは優しい人間であるということ覚えておきなさい」

翻訳はここまで

(注)内浦湾、淡島:静岡県沼津市

* この文章を本コンクール以外の目的で使用するには、著作権者の許諾が必要です。

翻訳に挑戦するみなさんへ

～審査委員からのアドバイス～

- 1 日本語で書かれたものを英語に翻訳する場合、原文の一語一語に対応して翻訳すると不自然な文章になってしまう場合が多いものです。そこで、課題文の日本語を分析・吟味し、英語にしやすい日本語に直し、その上で英語に翻訳することを勧めます。
- 2 和英辞典をうのみにせず、日本語と英語の文章それぞれの文脈を十分考慮した上で、作業を進めるとよいでしょう。
- 3 読み手を意識し、読み手が「わかる」ように工夫してください。例えば、段落をきちんとつけることもそのひとつです。

日本語の文だけを相手にしていると、その意味がはっきりしなくても何となくわかったような気がしてしまいます。

翻訳をすると、文の構造、文章全体の筋道を意識せざるを得なくなり、そのことは日本語の文章を読んだり書いたりするのに大変役立ちます。

英語に翻訳する場合も、日本語に翻訳する場合も、翻訳されたものはそれ自体で独立した世界を持っています。

このジュニア翻訳コンクールでは、この点を意識し、学校で日々学んでいる英文解釈や英作文より高いレベルを目指してください。